

第5学年3組 道徳学習指導案

平成28年11月8日（火）第5校時

指導者 教 諭 西田 章子

- 1 主題名 本当の自由とは何か 内容項目〔A 善悪の判断、自律、自由と責任〕
- 2 ねらい 自由の大切さを理解し、自他の自由を尊重するために責任ある行動をしようとする判断力を育てる。
- 3 資料名 「うばわれた自由」（出典：「私たちの道徳 小学校5・6年」文部科学省）
- 4 主題設定の理由

（1）ねらいとする道徳的価値について

小学校第5学年及び第6学年の内容項目A－（1）は「自由を大切にし、自律的に判断し、責任ある行動をすること。」である。これは、社会生活を秩序づけるために規律を守り、自他の自由を尊重できる児童の育成をねらいとしている。

この内容項目について、他の学年との関連をまとめると以下ようになる。

小学校第1学年及び 第2学年A－（1）	小学校第3学年及び 第4学年A－（1）	小学校第5学年及び 第6学年A－（1）	中学校A－（1）
よいことと悪いこと との区別をし、よいと 思うことを進んで行う こと。	正しいと判断したこと は、自信をもって行 うこと。	自由を大切にし、自 律的に判断し、責任あ る行動をすること。	自律の精神を重ん じ、自主的に考え、判 断し、誠実に実行して その結果に責任をもつ こと。

世の中にはたくさんの自由があり、それらを選ぶ権利が保障されている。しかし、自由とは、自分だけのものではなく、相手や他の人の自由を認めることによって成り立っているものである。自由の意味をはき違えると周りに迷惑がかかったり、自分の将来に影響を及ぼしたりする。

人間にとって自由に考えたり行動したりすることは、自由を創造的により広げていくことにつながり、充実した生活を積み重ねていくことの基盤となるものである。自由であることは、豊かな人間性を培っていくことにつながるが、社会生活を営む上では、そこにきまりがなければならないし、同時に自由の中に責任をもたなければいけない。

高学年児童の段階においては、自主的に考え、行動しようとする傾向が強まる時期である。一方で、自由のとらえ違いをして相手や周りのことを考えず自分勝手な振る舞いをしてしまうことも見られる。また、自律的で責任のある行動をすることの意味やよさがわかりにくい児童もいる。自由だからこそできることやそのよさを考えるなど、自由な考えや行動のもつ意味やその大切さを実感できるようにすることが大切である。自由に伴う自己責任の大きさについては、自分の意志で考え判断し、行動しなければならない場面やその後の影響を考えることなどを通して、多面的・多角的に理解できるようにすることが重要である。そのことが自らの自律的で責任のある行動についてのよさの理解を一層深めることにつながる。

（2）児童の実態

①各教科等において

本学級では、宿題で自主学習に取り組んでいる。

(略)

②特別活動において

係の活動で活動内容を決めて実行したり、林間学校のグルーピングを話し合いで決めたりなど、自由に考えて行動する場面で、自分のしたいことを考えて主体的に行動することはできている。

(略)

以上のように、児童にとって自由とは、自分が好きにできること、樂ができることであると考えていたり、自由と自分勝手とは違うという認識はあるものの、その違いが何かというところまでは自覚していなかったりと、自由の本当の意味を理解しているとはいえない。そこで本時の学習を通して、自由に振る舞うには自己規制が伴うことや自由と規律ある行動の意義を理解させ、価値の自覚を深めていきたい。

(3) 資料について

思いのままに行動することが自由だと思っている王子が、その考えが間違っていることを森の番人ガリューに諭されるが聞き入れず、その後、王になったジェラル王が、国の乱れで囚われの身となり、改めて真の自由とは何かを考えるという内容である。

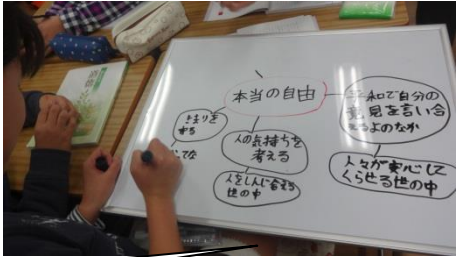
このジェラルとガリューの自由に対する考えの違いを話し合うことで、自由のもつ意味や自由の大切さを多面的にとらえさせる。そして、ガリューが言った「本当の自由」を中心発問として授業を展開し、中心発問で十分考えさせるために、児童自身が今まで捉えてきた自由と対比させたり、友達と考えを交流させたりしていく。その際、単に規則やモラルを守ることのみに終始するのではなく、自制心をもって自律的に行動することが他者の自由を大切にすることに気づかせ、互いの自由を尊重し、それを実現することの大切さを考えさせられるようにする。

5 他の教育活動との関連

事前指導	4月・9月 学級活動（１） 係を決めよう 係の活動を創意工夫し、向上的な活動計画をたてて、実行する。	4月 学級活動（２） わたしの家庭学習 計画をたてて家庭学習を進めることの大切さを理解し、進んで実践できるようにする。
		
道徳の時間	1 1月 「うばわれた自由」 自由の大切さを理解し、自他の自由を尊重するために責任ある行動をしようとする判断力を育てる。	
		
事後指導	1 2月 総合的な学習の時間 「みんなにやさしい街作り」 高齢者や外国の方の思いや福祉に関わる方の喜びや大変さを知り、「みんなにやさしい」とはどんなことかを考え、自分でできることを見つけ実践する。	

6 展開

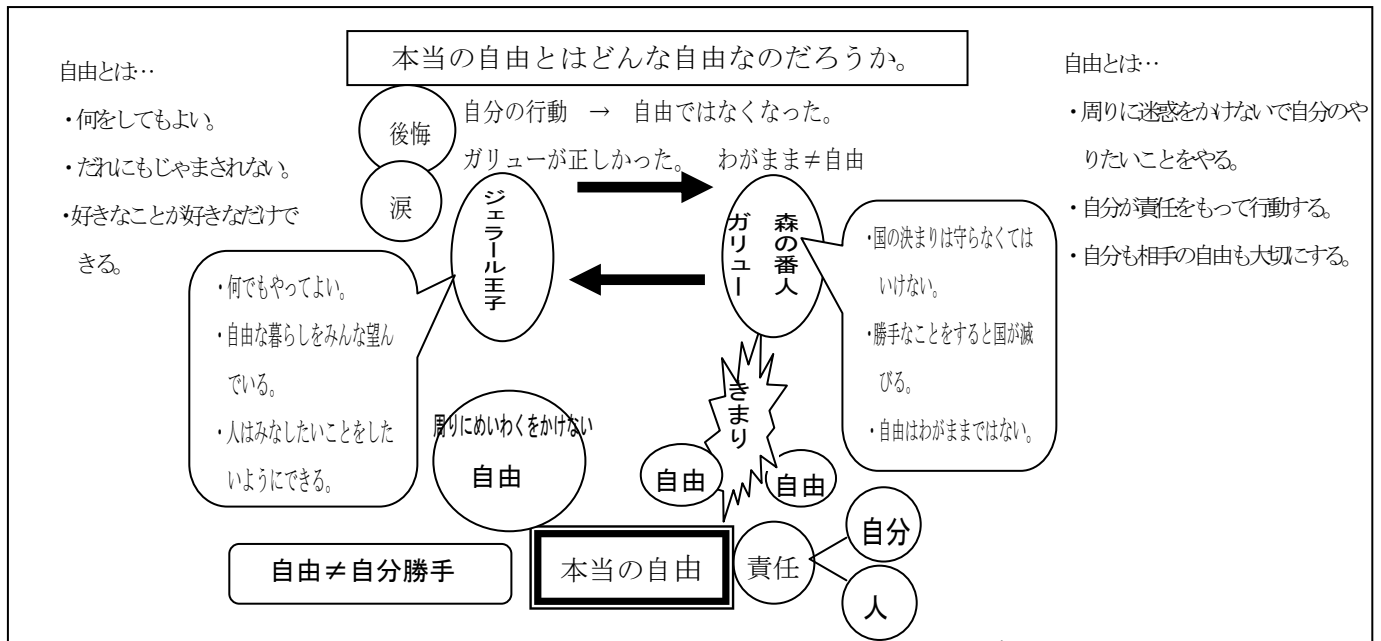
段階	学習活動 ○主な発問	予想される児童の反応	指導上の留意点 ☆評価の観点
導入	1 学習課題を設定する ・「自由」という言葉からどんなことをイメージするか。 授業全体を通して追求していくテーマを掲げ、ねらいとする価値について問題提起する。	・何をしてもよい。 ・だれにもじやまされない。 ・好きなことが好きなだけできる。	◇「自由」という言葉のイメージを想起させ、ねらいとする道徳的価値への方向付けを図る。
展開	2 教材「うばわれた自由」を読んで話し合う。		◇本時は、教材を通じて「自由」について考えることを話す。
	(1) ジェラルール王子と森の番人ガリュウの考える自由とはどんな自由か。 (2) ジェラルールはなぜ涙を流したのだろうか。	ジェラルール王子 ・何でもやってよいと思っている。 ・自由な暮らしをみんな望んでいる。 ・人はみんなしたいことをしたいようにできる。 森の番人ガリュウ ・国の決まりは守らなくてはいけない。 ・勝手なことをすると国が滅びる。 ・自由はわがままではない。 ・わがままは人に迷惑がかかる。 ・自分が間違っていた。 ・わがままな心で国が乱れてしまったことを後悔している。 ・ガリュウが正しかった。 ・自分がやったことは自分に返ってくる。	◇ジェラルール王子とガリュウの双方が考える自由について話し合い、二人の自由の違いを考えることを通して、価値理解、人間理解を深める。 ◇牢屋に入れられて、自分のわがままから国が乱れ、自由がうばわれてしまったことに後悔するジェラルールの心をおさえる。

	(3) ガリユーが言った本当の自由とはどんな自由か。 意図的指名、問い返しの発問を適宜行うことで本当の自由について多面的に考えさせる。 3 「本当の自由」について、これからの自分を見つめる。 自由だからこそ気をつけなければならないことは何か。 書く活動を通してねらいとする道徳的価値の自覚及び自己の生き方について考えを深めさせる。	- みんなが幸せに暮らせる。 - 決まりを守った上で、やりたいことができる。 - 人に迷惑をかけない。 - 自分がやったことには責任をもたなければいけない。 - 周りのことを考えて、自分らしく生きる。 ホワイトボードを活用し、相互交流しながら思考を整理させる。 - 周りに迷惑をかけないで自分のやりたいことをやる。 - 自分がしたことには責任をもつ。	◇小グループで話し合い、全体で共有する。  ☆自由には、責任が伴うこと、自分勝手な自由ではないということに気づくことができたか。(発言・つぶやき・表情・ホワイトボード) ◇これまでの学習から「本当の自由」について自分なりの考えをもてるようにし、これからの自分自身の生き方につなげていく。 ☆本当の自由とはどういうことなのかを理解し、責任ある行動をすることの大切さを考えることができたか。(発言・つぶやき・表情・私たちの道徳P 31)
終末	4 教師の説話を聞く。	自由に伴う責任について考えずに行動してしまった教師の経験について話し、余韻をもたせる。	◇自由に伴う責任について考えずに行動してしまった教師の経験について話す。

7 評価

- 自由には、責任が伴うこと、自分勝手な自由ではないということに気づくことができたか。(発言・つぶやき・表情)
- 本当の自由とはどういうことなのかを理解し、責任ある行動をすることの大切さを考えることができたか。(発言・つぶやき・表情・私たちの道徳)

8 板書計画



自由についての考えを対比的に示し、学習の流れや児童の思考過程が見えるようにする。